

今年度の活動

2020 年度は IAMAS に赴任して 5 年目を迎え、カリキュラムの再編に伴い、新規の授業（総合学 C、メディア表現特論 C）を立ち上げた。新型コロナウイルス感染症対策により授業開設の目処が立たず、総合学 C を休講にしたものの、次年度の博士後期課程設置を目前にメディア表現学において芸術学のコンテクストを位置づける見通しを立てる一年となった。

その意志表明として、オンラインで開催した IAMAS OPEN HOUSE 2020 にてメディア表現学会（仮）を立ち上げた他、実行委員会のメンバーとして岐阜おおがきビエンナーレ 2019 に続く趣旨文「距離を経て、新たな学びの親密圏を考える」を提案した。Action Design Research Project では、研究分担者の立場から、個人研究として継続している 1960 年代以降のアート、デザインにおける協働の系譜を踏まえ、デジタルファブリケーションを背景とする協働の可能性を論じた。この他、移動体芸術プロジェクト（2017～2019 年度）の延長上にヨーロー・エンタ・ピクニック（10 月）、新型グループライド（7 月、2 月）に参加し、オンライン・イベントの可能性を実践的に模索した。

◎講演、その他

【講演】2020 年 6 月 3 日「メディア表現と資料研究」（教養演習、明治大学）

【トークイベント】2020 年 9 月 19 日 第 23 回文化庁メディア芸術祭受賞作品展 功労賞インタビュー 幸村真佐男、伊村靖子

【トークイベント】2020 年 9 月 19 日 第 23 回文化庁メディア芸術祭受賞作品展 エンターテインメント部門受賞者トーク「視点の視点」佐藤雅彦、佐藤匡、齋藤精一、伊村靖子（『メディア芸術カレントコンテンツ事業報告集 2020』（国書刊行会、2020 年）118-122 頁にレポート掲載）

【講演】2020 年 12 月 19 日シビックプライド講座第 3 回「岐阜に足りないものは、デザイン？アート？それとも編集？」（みんなの森 ぎふメディアコスモス）

【研究発表】2021 年 2 月 11 日「生活の芸術化 建築と市民を結ぶ「記憶」のアーカイブ」「アートと地域の協働をキュレーションする」（富山大学）



第 23 回文化庁メディア芸術祭受賞作品展 エンターテインメント部門受賞者トーク「視点の視点」

◎テキスト

【評論】伊村靖子「藤幡正樹《Light on the Net》(1996)の再制作を通じて見えてきた、インターネット越しのコミュニケーション」(メディア芸術カレントコンテンツウェブサイト：http://artfrontgallery.com/project/Other_Projects/ar.html) 2020年9月11日、『メディア芸術カレントコンテンツ事業報告集 2020』(国書刊行会、2020年) 75-83頁。

【インタビュー】熊谷寿美子インタビュー(日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ：http://www.oralarthistory.org/archives/kumagai_sumiko/interview_02.php)

【研究ノート】伊村靖子「協働的デザイン環境をめぐる試論」『情報科学芸術大学院大学紀要』第12巻、2021年3月、pp.100-105

【小論】Critical Cycling ウェブサイトへの連載：<http://criticalcycling.com/> (2019年6月から毎月30日に発表)

◎社会的活動

文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員

文化庁アートプラットフォーム事業 テーマ・アドバイザー

日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ メンバー

◎学内の活動

【授業】メディア表現基礎2、論文研究、メディア表現特論C

【授業】Action Design Research Project